



開校当時の山村女子高等学校

この間の卒業生数は一万二千九百六十八名にのぼり、学園卒業生総数の三十四・七%を占めております。
ここに最後の卒業生六十六名の進路状況をのせておきます。
大学十五名・短大十二名・専門学校二十八名・就職七名・その他四名です。
ここで、商業科第一回の卒業生である高山清江（旧姓福島）さんに当時の思い出を書いていただきました。

身体の小柄な私は、担任の田島先生のお隣でセーラー服で希望に萌えて緊張した面持ちで写っています。
この頃から、女性も社会に進出していく時代が来ると、誰もが感じていたのではないかと思います。
そんな折、山村学園に商業科ができることを知り私は迷わず志望しました。
何も知らない五十三名の私達を、手とり足とり何の不安もなく、御指導くだされ充実した日々を過ごしました。
特に、二年生になると商業科ができたばかりと言うのに、今まで目にしたことのない英文タイプを授業に取り入れ、時間のたつのも忘れて練習に励んだ事が、昨日のことのように思い出されます。
また、商業簿記も初めて学ぶ科目で、仕訳をして借方・貸方という言葉を知りました。
この時代としては、珠算検定・簿記検定・硬筆検定等も社会に出て行くには、必要不可欠な内容であったように思います。
また三年間を通じて被服制作の授業があり、女性として必要な和洋裁を学ぶことが出来、私にとって幸せなことでした。卒業後も生地を買ってきて、浴衣・綿入れの袖無し羽織・ブラウス・スカート等を縫って着用しました。
その外に、特別教育活動の時間に礼法を名譽校長先生から習った事も忘れられません。
平成十六年度をもって商業科が廃止



高校の被服制作の授業の時に使用した教本

山村学園短期大学の近況について



山村学園短期大学 学長 山村 健先生

山村学園短期大学の近況についてお知らせします。
平成元年の開校以来、はやくも十六年の歳月が流れましたが、この間の社会の諸状況の変転はまことに大きなものがありました。平成始めのバブルとその崩壊、とりわけ、ひきつづく学齢人口のげんげしい減少の衝撃は、本学をも直接に襲いました。この衝撃に立ち向かうべく本学は幾多の対策を講じて今日に至っています。

第一は発足当初の国際文化科の大幅な改変です。国際文化科に盛り込まれた国際性、国際理解の精神を生かしつつ、文化、心理、言語、ビジネスの四つの科目群から成るあたらしい「コミュニケーション学」を立ち上げました。またこれと合わせて、あらたに保育士養成を目的とする「保育学科」をスタートさせました（平成十四年）。
このような学科再編に先がけて、隣接の東京電機大学及び大東文化大学と、相互に授業科目が受講できる単位互換の協定を結び、互いに学生たちが行き来することができるようになりました。
三つめは、保育士と合わせて、幼稚園教諭の養成課程を併設し、保育学科とコミュニケーション学科のいずれにおいても、幼稚園教諭の資格が取得できるようになりました。
四つめは、先に国際文化科から移行したコミュニケーション学科のカリキュラムの根本的な刷新です。とくにもろもろの資格が取得できる実務中心の授業科目を大幅に新設し、平成十八年度にあらたなスタートをきる予定です。
以上が、これまで試みてきた大学改革のあらましです。しかしこれをもって事足りれりとするわけにはいきません。今後とも、教職員一丸となって、きめこまかな学生指導を旗印に、本学のあたらしい未来を切り拓いていく努力を重ねていく所存ですので、今後ともよろしくご支援のほどを心よりお願い申し上げます。

第三十三回 むらさき会総会を終えて

ありがとうございました

原田 志保子(武田 博華)

平成七年に山村女子高等学校に入学し、生井先生担任の英語科で三年間学びました。大変な事も多かったけど、もともと英語が好きだったのと、女子高だということ、かわいい制服だということが毎日を充実させてくれました。英語科は一クラスしかなかったので三年間、先生とクラスメイトが一緒だったことが更に思い出を多く、色濃くしたように思います。又、先生と生徒の距離を近くに感じる素晴らしい学校だと思いました。そのような中で大事な高校生活を過ごせたことを幸せに思っています。

東京芸術大学音楽学部邦楽科に入学、学部終了後、大学院に進み、六年間の大学生生活を終え、その後はメインの場



左が武田さん

所である東京での演奏活動に加えて、

ある高校の箏曲(琴)部の講師として生徒さんを指導したり、小・中・高校

での邦楽鑑賞会での演奏を依頼されています。弟子に稽古をつけたりなどしています。つい先日は、お知り合いの方の

企画により、A・L・Tの方達の前で(アメリカ人二十名、昨年に続き二回目)

日本の伝統楽器の美しい音色を披露し大変喜ばれました。これからも、より大勢の方に聴いていただき、箏(琴)や

三絃(三味線)を知っていただくために技術向上に努め、リサイクルやコンク

ルへの挑戦なども目標にしています。むらさき会で企画してくださったお

かげで、同窓生の皆様にも聴いていただく機会ができ、三年間ご指導いただ

いた生井先生の涙まじりの眼差しをも目の当りにして凄く幸せを感じました。

これからも母校にはいろいろな形で携わっていただければと願っています。昨年、

絵解き「源氏物語」CD版「若紫」のイメージ音楽の創作、収録したのに続

き、今回「桐壺」の巻を依頼されました。それも教育機関において読まれるものとして、やりがいの一つとなっています。

最後に、このような嬉しい機会をくださった「むらさき会」の皆様にご心より感謝申し上げます。

私のホームページは、

「武田博華(たけだひろか)」で検索して下さい。

同窓会に出席して

峯岸 愛子

実に五十六年ぶりの母校でした。鉄筋建の近代的な校舎と素晴らしい設備を誇る校舎に変わっていました。学習内容も大きく変化し、現在は卒業生の多くが国立公立大学への進学校へと進んでいるようです。今の学生が羨ましいと思うと同時に過ぎ去った歳月の長さをしみじみと感じました。

私は昭和二十一年の入学でした。終戦の翌年です。五人に一人という受験率の中で入学できたことは凄く誇りでした。遠くは吾野の山奥から、また梅園の山奥から自転車と電車に乗り継いで通い、同級生の中には暗いうちに家をでる方もいました。建物は古く教室は立錫の余地もない詰詰めでしたが、だれも文句をいう人はいませんでした。

そこにはいつも背筋をピンと伸ばし、凛々しい姿勢の山村めみよ校長先生のお姿がありました。非常に厳格な反面、慈愛に溢れ優しさを秘め、一人一人をよく見つめ個性や特技を伸ばした教育だったと思います。今言われている個性や特技を伸ばそうという教育思想の原点だったと思います。

「貞淑、愛敬、質実」の教育目標を掲げ、女性の向上を目指して女子教育の第一人者としての山村校長先生は当時の私の誇りでもあり目標でした。私

たちは卒業の最後の一年間校長先生の特別授業をうけました。

卒業制作の材料がなかった私に先生はご長男の半ズボンを縫わせてくださいました。この事は生涯忘れることはできません。

当時の川越高等家政女学校がなかったら、私の今日はなかったと思っています。卒業と同時に教職につき、働きながら大学の講習に通い、教員資格も取ることができました。

十五年間で教員はやめ、現在の会社を設立、その間、民生委員、保護司として社会にかかわり、かけがえのない多くの友人という財産を得る事もできました。

私学には公立にないきめ細かい指導とその学校の歴史があります。私は母校に対する誇りを以て社会に貢献していきたいと思っています。



友人に支えられて

山村国際高等学校 平成十六年度卒業生

松井 俊樹

時が経つのは早いもので、山村国際高等学校を私が卒業してからももう三ヶ月が過ぎようとしています。この三ヶ月間は私の今までの人生の中で最も早く過ぎていきました。様々に大変なこともありますが、今自分はとても充実した生活を送っていると、確信しています。ですがそれも山村国際高等学校での三年間があつてのもので、私の家は貧乏でしたから、元々私立の高校には行くことができませんでした。そんな私が山村国際高等学校に入学できたのはひとえに特待生制度のお陰と言えます。私の年度の頃にはまだ特待生審査基準が緩やかで、私のような生徒でも認められました。本当に僥倖という他ありませんでした。

このようにして何とか高校生になることができました。しかし実際の学校生活は自分の期待していたものとは程遠いものでした。詳しい事情は控えませんが、周りの環境は自分にとってかなり劣悪で何度か退学して大検でも受けようかと思う程でした。しかしその度に家族や友人の支えによりました。この支えによって私は通学を続けることができたのです。振り返ってみればこのときの苦しさが自ら受験勉強の原動力になっていたのでしょう。

受験に際しては、学校の先生方にとってもお世話になりました。取り分け

日本史の林先生と現代文の比留間先生には勉強以外の面でも大いに助けられました。その結果、自分の受験は大旨成功することができました。このような先生に出会うことが出来たことは、私がこの高校にいる間に感じた数少ないメリットの一つです。

こうして私は山村国際高等学校を卒業し、現在大学生として様々なことに挑戦しています。周りの人達との競争で苦しい思いをすることもありますが、ですがそのときには高校時代の自分を思い出し、先生方を思い出し、自らを奮い立たせて頑張っています。

高校生活と今

山村女子高等学校 平成十六年度卒業生

篠 智子

私にとって山村女子高等学校で過ごした三年間は、毎日が充実していて中身の濃いものでした。

嬉しい時も悲しい時も共に過ごした大親友。体育祭で優勝をし、さらに絆を深めた三年十二組のクラスメイト。最後の商業科であった六十六名の仲間達。生徒の事を一番に考えてくれた諸先生方。そんなみんなに出会えたからこそ毎日楽しく過ごせたのだと思います。

みんなと過ごした三年間は私の誇りであり、宝です。私は高校が大好きです。入学してよかったと心から思います。この春、高校卒業後は、山村学園短期大学のコミュニケーション学科に入

学しました。

自分の将来のためであると同時に人の役に立ちたいという思いから、多くの資格を取得するために勉強しています。

短大生活にも慣れ始め、自然に囲まれたキャンパスの中、楽しい毎日を送っています。

二年間という短い期間ですが、自分を大きく成長させ、高校生活に負けないう充実したものにしていきたいと思います。



パソコン教室

来年のむらさき会総会は

五月二十八日(日)

十一時開会

会場 川越プリンスホテル

部活動紹介① (山村女子高等学校)



バレーボール部



バスケット部

山村女子高等学校からの メッセージ



山村女子高等学校
校長 下田 宏吉 先生

今日の教育界は大きな転換期を迎えています。少子化・情報化・価値観の多様化などで教育活動が複雑となり、ともすれば学校教育にゆとりが持てなくなることもあると言われています。

しかしながら本校生はそうした社会環境の中にあっても各自が努力し、自分の個性を磨いて心身ともに大きく成長しています。学校生活を通して、授業だけでなく、HR活動、また学校行事や部活動にと青春を謳歌し、心身ともに充実した日々を送っています。

本校は、このような充実した学校生活を送るための環境づくりとして様々な取り組みを行ってきたとともに、進学校としてのいろいろな試みを行い大きな成果を挙げてまいりました。その成果として素晴らしい進路実績を残してくれましたが、私は学校生活は決してそれだけではないと思っています。本

校の伸び伸びとした環境の中での、豊かな人間性の育成を目指した取り組みも、また大いに役立っていると思えます。それはまさに、本校の教育理念でもある人間教育に着実に結びついていると思っています。こうしたことが、学校内外の方々からの高い評価に繋がっていったのだと深く感謝するとともに、今後はその評価を本校教育の更なる発展のために役立てて行きたいと考えています。

私は、これからも微力ながら本校発展のために尽くす覚悟です。むらさき会の今後の発展と皆様の御健勝を祈念申し上げます。

▲主な部活動の成績▼

- ◎バスケットボール部
- ・関東大会（東京）5位
- ・インターハイ県予選 三年連続優勝
- ◎バトン部・ダンス部
- ・東日本大会（東京）優勝
- ・世界大会出場（オーストラリア）
- ◎テニス部
- ・関東大会県予選三位
- ・関東大会（東京）九位
- ◎少林寺拳法（個人）
- ・全国大会出場（秋田）

平成15・16年度主な進路		15年度	16年度
国立・薬・獣医・看護	大学名	1	2
	一橋大学	1	1
	東京大学	1	1
	筑波大学	1	1
	大阪大学	1	1
	京都大学	1	1
	神戸大学	1	1
	岡山大学	1	1
	広島大学	1	1
	山口大学	1	1
	徳島大学	1	1
	香川大学	1	1
	高松大学	1	1
	愛媛大学	1	1
伊予大学	1	1	
私立	大学名	15	16
	立教大学	3	1
	早稲田大学	19	6
	成成大学	7	17
	東洋大学	14	7
	文京学院大学	23	3
	女子学院大学	1	13
	女子大学	6	26
	女子学院大学	4	8
	女子大学	4	15
	女子大学	1	7
	女子大学	1	1
	女子大学	1	1
	女子大学	1	1

山村女子高等学校の 教頭就任にあたって

山村女子高等学校
教頭 吉野公昭 先生

同窓会の皆様には、母校の教育振興と在校生の激励のために、平素から格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

四月一日、学校法人山村学園理事長山村寛先生から山村女子高等学校教頭を命ぜられました。微力ではありませんが、与えられた職務を真摯に遂行する所存でおります。無限の可能性を秘めた次代を担う若者を守り育てるといふ教育の崇高な理想は、挑む価値のある崇高な職務です。自らを磨き高め、職責にふさわしい資質能力の向上にも努めたいと思います。

教育には維持と進歩の二つの側面があります。人間として備えるべき根源的な素養や人間性に関する教育内容は、時代が移っても変わりませんが、知識や技能面では、社会の変化に対応した教育内容の進化が求められます。社会環境変化の著しい現代は、良き伝統の上に斬新な教育学習活動を展開してきた山村女子高等学校の特色が最大限に発揮される時代です。合理的に工夫されたきめ細かな本校の指導システムは、一人ひとりの個性や適性・能力をじっくりと伸ばし、「卒業時には希望する大学へ十分対応できる学力を身に付け

させてあげる」ことができる」と確信しています。全体としての学校の姿は常に進化していくべきものであり、伝統とは数々の新しい取り組みの中で良いものが残され積み上げられることで築かれるものです。

さて、昨今は全国的な生徒の減少期にあって、高等学校は公私を問わず何らかの改革を求められています。続く不況の中で我が国の社会には、閉塞感が漂い若者が夢を持ちにくい状況があるようにも感じます。しかし学校としては、その雰囲気を感じず、決して閉塞感を感じず、閉塞感を打破し、生徒達に将来に対する夢や明るい展望を持たせ、変化を社会を逞しく生きていく力（真の学力）を、身に付けさせなければなりません。今教育に求められているものは、この一点に凝縮されるようにも思います。

移り変わりの激しい現代社会において、覚えた知識だけでは、とうてい間に合うものではありません。自分の持っている知識を生かして新しい事象にどう対応するか、その能力が問われます。「何を知っているか」ではなく、「何が出来るか」が問われる社会へと移行しつつあります。どこの大学を出たかだけでは通用せず、「それで、君は何が出来たのか」と問われる時代になりつつあります。

次代の社会を築く若者にふさわしい教育を提供できる学校として、教職員

近況報告



山村国際高等学校
校長 石川 富夫 先生

一同一丸となって誠心誠意努力して参りたいと思います。終わりに、むらさき会の皆様のご健勝ご多幸を祈念申し上げ、甚だ意を尽くしません。就任のご挨拶とさせていただきます。

同窓会の皆様には、日頃より本校の教育の充実・発展のため、温かいご支援を頂いておりますことに心より御礼申し上げます。

さて、せっかくの機会でありますので本校の「近況のご報告」と「お願い」を申し上げます。

まず第一は、「校訓」の一部変更についてであります。「校訓」の「貞淑」をこの度「英知」と改めさせて頂きました。本校は共学化し、6年めを迎えます。「貞淑」は男子生徒にとっていかなるものか、ということから「英知」と改めた次第です。ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

第二は、来年度の入試から「普通コース」の男子受験を認めることとしました。

第三は、十六年度卒業生の進路実績であります。「空前」と言っても過言ではない成果をあげることができました。国立大学では、「信州大学」。私立大学では、「早稲田大学」・「上智大学」・

「東京理科大学」・「津田塾大学」・「国際基督教大学」・「法政大学」・「中央大学」・「國學院大學」・「日本大学」・「成蹊大学」等々、いわゆる、「有名大学」に現役合格という、快挙を成し遂げました。このことは、後に続く生徒達に、大きな励みと勇気を与えてくれました。今後はこの「空前」の実績をさらに超えるよう、更に一層進路指導の充実に努めて参ります。

第四は、生徒募集に関するお願いです。同窓会の皆様には、この事について、日頃よりご支援を頂いていることに感謝申し上げます。ご案内のように、少子化の進行する中、本校も生徒募集に鋭意努力しているところであります。今、申し上げた本校の進路実績をお知り合いの方々へ広くお伝え頂くと共に本校への進学をお勧め頂ければ幸いに存じます。

第五は、本校で今年度「力」をいれている指導について、報告させて頂きます。それは、「躰教育」です。「挨拶」・「有難う」・「すみません」・「プリーズ」・「スマイル」の励行と「服装」指導です。「確かな学力」を身に付けるには、「品性溢れる若人の育成が基本」となります。「躰教育」に全校を挙げて取り組んでいる所以です。

終わりに、「むらさき会」の益々のご発展と、会員の皆様の益々のご健勝をご祈念すると共に、今後とも変わらぬ、本校に対するご支援を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

山村国際高等学校に着任して

松津 和信 先生

私は昨年三月、県立川越工業高等学校を最後に定年退職し、その後深谷市にある総合教育センターにお世話になっておりました。平成十七年四月から、縁があり、八十有余年の歴史と伝統のある本校に着任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

山村国際高等学校に勤務して気づいたことは、先生方の面倒見の良さでした。月曜日から土曜日までの放課後等の補習はもとより、休み時間などにおける生徒の質問に対しても、親切に答え、丁寧に教えていることでした。このような光景は、公立高校では多く見られません。私は公立と違い、直接保護者の皆様から授業料をいただき、私たちが生活出来るのですから、当たり前なことなのかも知れません。このことは、山村めみよ先生が「裁縫手芸伝習所・山村塾」を開いたとき、最初の入学生である永倉きんさんに対し、マンツーマンで御指導されたことが今でも連綿と引き継がれてきているのだと思います。また、先生方は熱心に教材研究をしていることでした。生徒の皆さんの持てる力をより伸ばそうと必死なのです。本校教員に教えられた生徒の皆さんは、やがて大きく成長していくものと私は確信しています。それと、校内が綺麗であったことでした。本校の建物には築後三十八年を

経過するものもありますが、大切に使用され、綺麗な方には驚きました。私は常々、良い学校の条件は「授業中静か、学校が綺麗」であると思っています。「授業中静か」とは生徒の皆さんが集中して勉強していることであり、「学校が綺麗」とは清掃が行き届き、ゴミが落ちていないということです。本校はその条件を十分に満たしているのです。

今後も素晴らしい学習環境を維持すべく、保護者・生徒の意見に耳を傾け、生徒の皆さんの将来の夢の実現のため、充実した高校生活を送れるような環境作りのお手伝いをしていきたいと思っています。

結びになりますが、貴同窓会「むらさき会」の益々の御発展を御祈念申し上げます。本校着任の挨拶といたします。



来年のむらさき会総会は

五月二十八日(日)

十一時開会

会場 川越プリンスホテル

退職された先生より

在職当時の思い出

元英語教諭 山崎達男

山村女子高等学校には、平成五年四月から六年間大変お世話になりました。この間、多くの先生方から教えを受けながら、適度の緊張感と教職の身にあることの大切さを、改めて実感して充実した毎日をごさせて頂きました。

言いづらいことですが、「教えること」と、「学ぶこと」は全く同じことだといつも実感しています。

山村女子高等学校のもっているとても良い面を折に触れ気付かせて頂きました。

また、教職員全体が一致協力して良い校風をつくっていらっしゃいます。胸を打たれたものです。

山村女子高等学校とお別れして早くも六年経ちました。

今でも私自身が作っていた「授業ノート」と、私に対する生徒の皆さんの「授業感想文」を時折読みます。それを読みかえすたびに、自分の力量不足を痛感します。また、少々褒めて下さった感想などを見ますと年甲斐もなく照れたりしております。

現在、私は、川越市のシルバーの一名としてシルバークレジットをさせて頂いておりますが、ガイドが終った時に、観光客として川越に来て頂いた皆様

良い思い出だけをいつまでも大切に、とつけ加えています。英語では「Only fond remembrances go with you!」
とでもいうのでしょうか。

良い思い出が沢山作れることはとても楽しいことだと思います。

終りにあたり、山村女子高等学校のますますのご発展とむらさき会の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

退職して思うこと

元英語教諭 生井美津子

三十七年間の教師生活に終止符を打って、今心静かに回顧すれば、尽きぬ思いで一杯である。大学を卒業し世間の事を何も知らないまま、人生のほとんどを本校でお世話になったのである。この間約九万時間、長いようで短く、どの瞬間も忘れられない思いに満ちていて懐かしい。本校に寄り添って生きてきた私ではあるが、この年間を修行、発展、躍進時代と大きく三段階に分けてみた。

修行時代は商業科の黄金時代であった当時、授業ではその事前準備や進め方を、HRではHRの運営の仕方を例えば朝や帰りのHRにソロバンをさせたりなど、成績処理やその他の大事な事務処理など、何も分からないところから無我夢中で学んだ。始めてのクラスは一号館の三階の端で富士山がくつきり、東京から通勤していた私には感

動の一コマであった。また、現在の六号館の建物の所に大きな銀杏の木があり、春には可愛い新芽が、初夏には若葉、夏には深緑、秋には見事な黄色、そして冬枯れとその銀杏は四季の移り変わりを明確に教えてくれた。二号館の高い教室からはその様子がよく見え、朝は元気をもらい、仕事に行き詰まると思われ、夕方は「お疲れ様」と言ってくれているようだった。創立者の山村みよ先生の温かく厳しい御指導を自分の胸にかみ砕く時、銀杏の木は黙って見守ってくれていた。先生はよく気を配って下さって教員が力を入れた時は必ずお褒めの言葉があり、行き届かない所はきちんと指摘して下さいました。のだった。その当時、通知表は手書きで、家庭通信も入れて二部作成した。数の羅列で間違いやすく基になる表が少しでもずれると前後の生徒の点数を写してしまっ、最初からまたやり直し、失敗の連続で遅くまで職員室に残り完成させたものだった。テスト問題も「ガリ版刷り」。鉄筆で「ガリガリ」と音を立てるのだけは好きだったが、うまく仕上がらないので仕事の中では一番苦手な分野であった。印刷も謄写版で手や洋服を真っ黒く汚して刷ったものだった。

発展の時代ではより判りやすい授業を、HRの運営をよりスムーズに心がけた。生徒の数も商業科より普通科の方が多くなり、それに加え、NZのオンズローカレッジとの国際交流プログラムも導入され未知なる世界に挑戦、

奮闘した。しかし順風満帆で進んでいるわけではない。何度も自己嫌悪に陥って、また気を取り直して立ち上がる、この繰り返し。一例を挙げれば第一回目の国際交流の引率時でNZ人の英語を聞いたとき、スピードが速いのと強い訛りとでさっぱり解らず、研修参加生徒の面前で「サー」と血の気が引いてしまい、深い奈落の底に落ちてしまった。今思い出しても赤面の至りである。カルチャーショックもある。ホームステイ先では校長であるが、どんなに地位の高い人であろうと料理、育児（子供の送迎）、洗濯、掃除を当然の如く行っている姿に感銘を受け、日本社会との違いに心底羨ましいと思っただけである。その交流も平成十七年度で二十回になり二十年間も両校がお互いに行ったり来たり関係が続いているとは驚異である。勿論その陰には学校筋はもとより、全教職員の皆さんの並々ならぬ苦勞と協力があつたからこそ継続出来るのであるが。国際交流が始まってしばらくして、英語コースが設けられ、進学に、語学面に、留学に向け学習指導を強化した。失敗の連続で生徒には迷惑をかけただけかもしれないが私にとってはかけがえのない思い出になった。

最後の躍進の時代では文理コースが設置され、十五歳人口も減少気味でいよいよ世間のニーズに公的に高い評価を受けなければならぬ時期が迫っていた。英語の教員である私個人は狭義な考えを持ち、文理に負けるものかと、

文理を受け持つ予備校の先生に密かにライバル意識を持ち、英語コースの英語は勿論のこと他教科も伸びるように心血を注いだ。時には予備校に通い浪人生と肩を並べ受験生の境遇に浸り、情報を集めて、生徒に役立てるように努めた。とにかく成果を挙げなければならなかった。「出来ることは何でもしようという」という心境だった。朝ゼミ、朝のHR、帰りのHR、週末学習プログラム、長期学習プログラム、英検の前は異なる英検用の補習を少しの時間も見つけて実施した。時々朝の漢字テストや英単語テストでクラス平均百点も取得して悦にいつていた。

その結果、英語コースで国公立、難関私大、米留学と文理コースの域までは達していないがどうにか追いついた成績を残せるようになった。これもすべて、英語科の先生方の協力と、生徒たちのやる気と粘り強さがあったからこそである。

お世話になった期間を三段階にわけたが通して相通することは、教育とは心を大事にしながら力をつけていくこと、基本に人を大事に思う心が流れていれば、どんなに厳しくても、生徒はついてくるものであると信じている。

来年のむらさき会総会は

五月二十八日(日)

十一時開会

会場 川越プリンスホテル

修行時代は「心を大事」に、発展時代は「ただがむしゃら」に、最後の躍進時代は「文理に負けまい」としたこの気構えのみ。しかし可愛い生徒達は時には「部活に遅れる」とか不満を言いながらも、皆頑張っていた。今の私の気持ちは大げさに言えば「闘い抜いた後」のような気持ちである。この私が一教員として伝道したことよりも、生徒達や諸先生方から教えて頂いた事の方がはるかに多い。全体を通して何かうまい言葉で表そうとしても「感謝」の二字しか今は見つからない。「ありがとうございましたございました」という気持ちで一杯です。三十七年間の私の唯一の財産は、三十七年間教育の畑を耕して、きつい要求にも離れずついてくる生徒、それ以上に伸びる生徒の美しい姿はどんな高価な宝石よりも光り輝き大切なかけがえのない宝物であるか掘り当てたことである。

部活動紹介②

(山村国際高等学校)



ダンス部



(山村女子高等学校)



テニス部



剣道部 吹奏楽部 バドミントン部
バスケットボール部 バレーボール部 福祉部

編集後記

皆様方のご協力を得て「むらさき会だより九号」ができました。山村国際高等学校が男女共学になって二回目の卒業生が果立っていきました。来年の総会(五月二十八日)は、皆さんからたくさんの方を声をかけていただき、お目にかかれることを役員一同楽しみにしております。

むらさき会

平成十七年度役員一覧

- | | |
|-----|-------|
| 会長 | 田中 久子 |
| 副会長 | 伊藤 勲子 |
| 顧問 | 野島 康子 |
| 顧問 | 福島ミヤ子 |
| 顧問 | 山村 寛 |
| 顧問 | 下田 宏吉 |
| 顧問 | 石川 富夫 |
| 事務局 | 小林 豊子 |

むらさき会連絡先

山村女子高等学校

☎049-225-3565

〒350-1113 川越市田町16-2

山村国際高等学校

☎049-281-0221

〒350-0214 坂戸市千代田1-2-23